

## セミナー 「高品質オンラインコース教材制作と教育実践」 参加報告 (2015.2.17)

---

中嶋康二 (熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻 特任准教授)

2015年2月17日(火)、京都大学 学術情報メディアセンター主催のセミナー「高品質オンラインコース教材制作と教育実践」(於:学術情報メディアセンター南館 2階 202 マルチメディア講義室)が開催され、Dr. Joseph S. Clark (Assistant Director, Instructional Development Office of Distance Learning, Florida State University) による講演が行われた。米国のオンラインコース制作や運用に関わる先進事例の情報を収集するため、これに参加した。

この講演では、全学的な教育の質向上を図るために ICT 環境やインストラクショナルデザインを活用して遠隔教育やオンライン教育を促進し、コース運営に当たる教員の支援を行うフロリダ州立大学の Instructional Development Office of Distance Learning が提供する様々なサービスについての紹介があった。

フロリダ州立大学では、学部・大学院レベルの学位プログラムや履修証明プログラムをオンラインコースとして多数開講している。これらのオンラインコースの制作に当たっては、その教育の質を保証するため、ルーブリックを活用して Learning Objectives, Assessment and Measurement, Instructional Materials, Learner Activities and Learner Interaction, Course Technology, Learner Support といった項目に関する整備状況をチェックしている(“Quality Matters™ Rubric Standards” 以下QMとする)。例えば「Learning Objectives」では、コンピテンシーを明記することが求められている。ここでは、各回のタスクやアクティビティとコンピテンシーがどのように関連しているかを明示することがチェック項目として挙げられていて大変興味深い。また、オンラインコースのためのシラバスチェックリストが担当教員向けに提供されている。ここで挙げられているチェック項目は、QMのどの項目と関連しているかが明記されており、根拠に基づいた、一貫した教育設計の質保証を目指しているところがよく伺える。Dr. Clark 曰く、オンライン学習者の数は近年飛躍的に伸びており、オンライン学習の機会提供とその質保証の重要性が高まっている。日本国内においても、「社会人の学び直し」が促進され、今後オンライン学習者が増加するものと考えられる。我々のプロジェクトがその点で貢献できるよう努めるうえで、今回伺った事例を参考にしたい。